

社会福祉法人笠木福祉会 放課後等デイともだち 発行責任者 中根賢明

## 子どもの最善の利益を求めてー「ともだち」の願いー ② 管理者:中根賢明

### 1) 放課後等デイは、親の願いとながい運動の歴史が実った制度！！

放課後等デイの事業は、平成24年4月の児童福祉法改正により成立しましたが、この制度が成立するまでには、障害児を抱える保護者の実に40年にわたるながくねばり強い障害者運動の歴史がありました。決して国が与えた恩恵ではなかったのです。

昭和47年度、まず就学前の心身障害児通園事業から始まり、その後親たちの運動で少しずつ拡充され、平成10年度にやっと小学6年生までに拡大されました。

### 2) 子どもは守られるだけでなく、権利の主体でもある！

子どもの権利は、戦後の児童憲章では「子どもは守られる者」という《受動的権利》でした。しかし子どもの基本的人権を国際に保障するための「子どもの権利条約」が批准（平成6年）され、保護されるだけの受動的権利だけでない「権利を行使する主体」（能動的権利）となり、国内法整備が進められました。そして平成24年の児童福祉法改正で放課後等デイが始まり、平成26年権利条約の完全実施の児童福祉法改正となりました。つまり子どもの権利を無視した国の政策・子育て・教育は認められないのです。放課後等デイや学童保育は、国の義務として「子どもの健全な発達を保障するため」の制度です。

しかし、国は財政が悪化するとすぐに「弱者切り捨て」を行います。それを防ぐには保護者・家族が連携して運動することが大切です。また保護者の連携は「子育ての苦勞や喜び」を共有するうえでも大切です。

### ◆ 《6月の活動・行事予定》

16日(土) どんご遊び 23日(土)クッキング(カレーづくり) 30日(土) げんきぼ学童交流◆  
土曜日の昼食について 支援員が交代でつくっていた土曜日の昼食は、子どもの支援に専念するため、6月より調理師がつくれます。そのため昼食のキャンセルは「前日午後3時まで」にお願いします（それ以降のキャンセルはなしで料金はいただきます）。

## 剛志くんのスイートポテト

宿泊学習が終わった次の日（5月18日） 剛志君は休養日で、1人だけ朝から来ました。他の子は午後から来ます。

6年生の剛志君に充実した1日を送ってもらいたい思いから、宿泊学習前に、この日をどうやって過ごすのか？提案してもらいました。すると、「みんなにスイートポテトを作って食べてもらいたい。」と言ってくれました。

そこで、当日は朝から、レシピを作って材料の買い物へ行き、芋を茹でて潰して混ぜると、大忙しの剛志君。「ケーキみたいなスイートポテトにしよう」とアルミカップにひとつひとつ丁寧に並べていきました。仕上げは、かさぎ保育園にオープンを借りに出掛け、ちゃんと自分で先生方に目的を伝えて貸して頂くことができました。

午後、学校から帰った友達が、「わあ！いいにおい」と気付くと嬉しそうに「サプライズがあるから！」と教えたいのを我慢している剛志君と、何かな〜!?とワクワクしている友達。とても良い表情でした。

全員が帰って来てから、「今日は、僕がスイートポテトを作りました。おいしいから食べてください。」と紹介して配る剛志君。座って待っていた皆は「ありがとう」とお礼を言い食べて、「おいしいよ、剛志君。」「おかわりしてもいい？」と大絶賛。「すごいね〜」などと尊敬もされて、少し照れつつおかわりをあげていました。食べ終わってからも「おいしかった」「おかわりしたよ」と話している場面もありました。

「また作ってあげる」と自信を持って返していた剛志君。。大成功の体験がまた友達に作ってあげたい、喜んで食べてもらいたいと相手を思う気持ちが膨らみ、美味しく仕上げられたことと最後まで作り上げたことが達成感になったようです。

（文責 荒田恵美）



## 触れ合い遊び

今子ども達は、わらべ歌や指遊び、簡単なルールのある遊びでのやり取りを楽しんでいると感じています。今回は、子ども達と楽しんでいる遊びを一部紹介しま〜す！

### 【大根漬け】

1人を大根に見立てて横になってもらい、大根役の子を歌に合わせて、もんだり、揺らしたり、くすぐったりする遊びです。全身あげられるので、ゆっくり歌いながら刺激します。大根役は、こよされることをとても意識するからか、全身がとても敏感になっより刺激を感じられるようにみんなで激しくくすぐっています。は期待通りで大笑い、大暴れして楽しそうです。



せて撫でに触れてちょこちています。子ども達

### 【もぐらどん】

もぐらどんを1人決めます。他児は円になって手をつなぎ、もぐその中心に座って目隠しをします。歌いながら回って「もぐらどんもぐらどん、あさですよーおきなさ〜い!」という、もぐらどんが目覚めて逃げる友達を捕まえて役交代です。同じ言葉をみんなで言う楽しさ、起こされて目覚めるという日常の情景と結びつきやすく、友達とイメージを共有できることも大好きな遊びの理由になっていると思います。また、歌いながら歩くので、リズムが心地良いものとなっているようです。

らどんは、

### 【オオカミさん】

侑士君が「これやりたい」と提案し、ルールを説明してくれました。歌に合わせて、歩き回ったり、「オオカミさーん」と呼びかけると、オオカミ役は「今起きたとこだよ」とか「今、着替えてるところだよ」と少しづつ出掛ける準備をしていき最後は「みんなを食べに出掛けよう」と言って追いかけて捕まえます。タイミングはオオカミしかわからないドキドキ感があります。ストーリーがあって、『オオカミと7匹の子ヤギ』や『三匹の子ブタ』などの世界で遊んでいるような気持ちになるようです。子どもたちは自然と「あーよかった!」「まだオオカミ来ないね」などイメージを言葉で表現し合うことで、友達とのコミュニケーションの深まりも感じます。

子ども達が 楽しい! もっとやりたい! 友達と一緒に楽しい! と思える場をもっと作っていけるようにしたいと思います。

(文責：荒田恵美)

